

のびやか



52号



フィンランドからサンタクロースが やってきました♪

クリスマスまであと1ヶ月となる11月25日、フィンランドからあわてんぼうのサンタクロースが利用者さんにプレゼントを届けに来てくださいました。

サンタクロースを囲んで歌や楽器演奏を行い、サンタクロースと楽しい時間を過ごしました。利用者さんも職員も笑顔がたくさんの一日になりました。

目次：

特集「小児科から」	2
読書コーナー	2
「食べる」機能の発達	3
地域の事業所の紹介	4～5
入所部門	6～7
掲示板	8

『周生期脳障がいについて』

～第3話～

青い鳥医療福祉センター

小児科医長 橋本真帆



今回は胎児期の赤ちゃんの脳への酸素が不足したために生じる様々な病態についてお話させていただきたいと思います。

前回でお話したように、赤ちゃんがうまれてくる前後の時期にさまざまな原因によって赤ちゃんに元気がなくなることを「仮死」と呼んでいます。仮死の赤ちゃんは脳や心臓、肺などの血流が減少し、このため血流に乗って運ばれるはずの酸素も減少することになります。

赤ちゃんの脳への酸素供給が妨げられる時期、程度、持続時間などによってその赤ちゃんがうける障がいの程度は異なるといわれています。

赤ちゃんの脳が酸素不足であった時間が短くて、その程度が強いものであった場合は脳の深い近いところ（大脳基底核）が障がいを受けやすいといわれています。ここは体の筋肉の緊張具合を調節することと深く関係しているため、この部位が障がいをうけると赤ちゃんが成長してから筋肉の緊張が弱く、歩くのが少し苦手な子や、これとは反対に筋肉の緊張が強すぎて体が固くなったり不随意運動が出現するタイプの脳性麻痺となることが多いとされています。ところが脳の表面（大脳皮質）は比較的障がいを受けていないことがあるため、ここの機能が保たれて言葉の理解が可能であることも多く見られます。

これに対して、長い時間にわたって少しずつ酸

素不足が続いた場合には脳の広い範囲に重大な障がいをもたらすといわれています。

酸素が不足している状態が長時間続くと、赤ちゃんの体が酸性に傾き、脳がむくんでしまうためと考えられています。

脳は周りを頭蓋骨に囲まれているので、むくみがでてくると腫れて大きくなった分の脳の見当がなくなってしまい、まわりの頭蓋骨に押しつけられるような状態となります。このことによってさらに血液が流れにくくなって酸素不足が進行し、脳の多くの部分が壊死してしてしまい、後になって脳に穴が開いてきてしまうことがあるのです。この状態を「多のう胞性脳軟化症」と呼んでいます。頭が小さく、症状が重い脳性麻痺やてんかんを発症することがあり、知的障がいも重度となることが多く見られます。

現在は分娩監視装置などによっておなかにいる赤ちゃんの状態がかなりわかるようになり、仮死徴候があるときは緊急帝王切開などで早めに対応できるようになってきております。しかし、それでも様々な脳障がいを完全に予防することができないのは、血流減少以外のメカニズムでも上記のような障がいが起こりうるためだと考えられています。

今後、どんどんこのメカニズムが解明され、仮死児の治療にいかされるように願っています。

読書コーナー

「100万回生きたねこ」 佐野洋子 作・絵

この絵本を初めて見た時、わたしはすでに大人でしたが、大人でも楽しめてまた考えさせられる絵本だなと思いました。何回生きたかが大切ではなく、どう生きたか？また愛されるだけではなく、誰かを愛することで初めて生きていることを実感する。自分自身を愛することも大切だけれど、それだけではむなし。この一冊のお話の中にメッセージが沢山込められているなと思いました。いろんな年代で読むとまた感じ方が変わってくる絵本だなと思いました。 (たんぽぽ東棟 天野)



地域の事業所紹介 Part13

戸田川グリーンヴィレッジ

(名古屋市中川区)

今回は平成23年4月に開設されたばかりの新しい施設、戸田川グリーンヴィレッジを見学させて頂きました。近鉄「戸田」駅から徒歩15分。戸田川緑地公園の緑あふれる自然の中にある外観はコンクリートのおしゃれな建物でした。一歩中に入ると、木の香りがして、長い廊下の上の高い天井には丸太の梁がピアノの鍵盤のように並んでいて、見た目にも楽しく、木のぬくもりに包まれたやさしい空間になっていました。

戸田川グリーンヴィレッジは、社会福祉法人名古屋ライトハウスが運営する障がい者支援施設です。入所の定員は40名、短期入所（ショートステイ）は8名です。自宅での介護が困難な、重度障がいの方が対象です。現在の入所者の障がい状況は、身体障がい者手帳1級が30名、2級8名、3級2名です。平均年齢48歳とのことでした。

コンセプトは「あなたらしく」。一人ひとりの生活スタイルを大切に、より在宅に近い豊かな暮らしを目指し、自己選択、自己決定できる場所を目指されています。そのためには完全個室で、個別支援計画をもとに、一人ひとりに合わせた支援がなされていました。

個室は約8畳ほどの広さで、日光が降り注ぎ、明るく清潔な佇まいでした。全室洗面完備で、ベッドでも布団でも対応できるとのことでした。プライバシーを尊重した作りで、部屋から廊下に



一歩でも、すぐには来客者から見えないうつくりになっていました。南北に長い、長屋形式の各部屋の中央にはひまわり食堂やカフェ Esora caféがあり、利用者の方が、気が向いたときにきて、コミュニケーションがとれるスペースになっています。実際、パソコンで麻雀ゲームをしたり、絵の具で絵を描いたりして、十数人の方が、楽しそうにすごされていました。建物の一番奥にあり、日光浴スペースでもあるくすのき広場では、毎日、日中活動があります。常勤の音楽療法士の方がみえ、音楽体操や音楽療法もふんだんに取り入れられています。そのほかには、ゴロバレー（座位で



のバレー) やカラオケなどもあるようです。活動への参加は自由で利用者の方の自己選択が重視されるとのことでした。実際、ショートステイを利用された方で、日中は主に部屋で読書をされたりして悠々自適な充実した時間を過ごされ、ご自宅での介護からは少し離れて、よい気分転換になったと満足された方もみえたようです。トイレは、介護しやすいよう十分なスペースがとってあり、汚れた場合に、その場で洗えるようシャワーつきトイレもありました。又埋め込み式の便器があり、寝たままの姿勢や割座などで排泄する場合は、とても便利だそうです。食事は、より家庭に近い食事スタイルを大切にされ、適温で旬の食材を利用した食事が提供されているとのことでした。食事については、ただ単に栄養をとるということだけでなく、より家庭に近いかたちを追及されているということでした。



たとえ重い障がいがあっても、個人の自己選択、自己決定を尊重したその人らしい生活を保障しようというコンセプトは、戸田川グリーンヴィレッジの随所に生かされ、入所者の方は、みなさんイキイキすごされているようにみえました。ただプライバシーを尊重した個室化は、安全監視という面では、難しさもあり、スタッフは、各部屋を巡回するため、長い廊下を走っているとのことでした。チームを組み、個人に合わせて効率よく巡視できる組織づくりも考えられているとのことでした。現在、居室で過ごすことの多い方は2~3名で、多くの方は、車いすなどで移動可能で、要望や希望はある程度、言葉で伝えられる入所者の方が半分程度だったようにみえましたが、今後高齢化、障がいの重度化などにより、支援の在り方も又難しくなってくるかとは思いました。ただ、現在の様子を見ると、重度障がいの方にとって、今、こういうかたちの施設は確実に必要なのだらうと思いました。

(リハビリテーション部 青木)

<主な日課>

*起床時間は相談しながら決めています。

8:00~9:00 朝食
朝食後、口腔ケア
バイタル計測

10:30~11:30 日中活動
自由時間

12:00~13:00 昼食
昼食後、口腔ケア
休憩/自由時間

14:30~16:30 日中活動
自由時間

14:00~17:00 入浴
月・水・金; 男性
火・木・土; 女性

18:00~19:00 夕食
夕食後、口腔ケア
自由時間

*就寝時間は各自でお決めいただいています。

◆戸田川グリーンヴィレッジ◆

<利用定員>

生活介護・施設入所支援; 併せて40名
短期入所(ショートステイ); 8名

<対象となる方>

常に介護を必要とする重度の障がいをお持ちの方。

♪お問い合わせ先♪

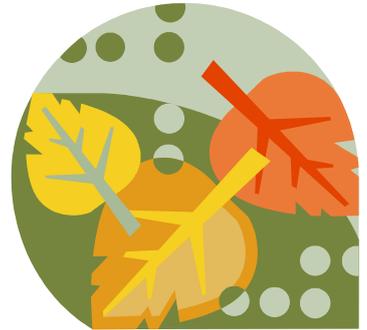
社会福祉法人 名古屋ライトハウス
戸田川グリーンヴィレッジ
住所: 〒454-0964
名古屋市 中川区 富永一丁目16-1
電話: 052-303-4114
FAX: 052-303-4116

入所部門

重症心身障がい児(者)棟 「たんぽぽ東棟」

♪ 秋のグループ外出 ♪

たんぽぽ東棟ではここ数年、秋にグループ外出をしています。行きたいところを各グループで決めて、2～3人ずつ外出します。今年は公用車や電車を利用して、日本昭和村、セントレア、南知多にみかん狩り、モンキーパーク、リニア館、大須商店街等に出かけました。利用者は、当日着ていく服を決めたり、一緒に行くスタッフと話をしたりととても楽しみにしていました。普段あまり外出する機会が少ないので、それぞれ外出を楽しんできました。



セントレアに行く途中の電車内にて



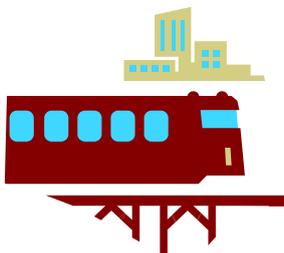
リニア館の新幹線前にて



モンキーパークのキャラクターと



昭和村のアイスクリーム作り体験



外出が終わったグループから、事前に掲示してある用紙に、思い出話をしながら外出の写真を貼りました。天候の良い日が多く、秋の気候も感じ、有意義な一日を皆さんすごされました。今後もこのような機会を作り、外出できるといいです。

(たんぽぽ東棟 天野)



遠足後、みんなと一緒に思い出写真を貼りました。

☆第11回 青い鳥夏まつり☆

8月28日(日) 夏空のもと、1300人を超える来場者があり、100名以上のボランティアさんに支えられ、賑やかな青い鳥夏まつりとなりました。



入所されている利用者さんが作詞し、ボランティアさんが作曲した歌を発表しました。

ぷくぷくばるーんさんにご参加いただきました。



通園部どんぐり園のお子さんがちらし配りやお手伝い模擬店のお手伝いをしてくれました。



